

	1	2
実施団体名	アジア農村協カネットワーク岡山	INE(居場所作りネットワーク)
学習プラン名	食べて学ぼう 世界のお米料理	多文化共生ってなに？
主なテーマ	異文化理解、多文化共生	多文化共生
時限数	3時限（調理実習、試食会が付きますが、なしでも実施できます。）	2時限
対象学年	小学校（5年生以上）・中学校・高校	中学校・高校
1回あたりの対象人数	25名までが好ましいです。	約40名
学習のねらい及び期待される成果	お米の学習で勉強した外国の料理、またインディカ米を使った料理などを実際に調理して試食することで、より深く興味を持ってもらうことができ、さらなる学習につなげる効果を期待しています。また多文化共生についても考える機会につなげます。	<ul style="list-style-type: none"> ① 多文化共生の理解 ② 岡山県の実状理解 ③ 当事者（外国人）の声を聞き、気づきを得る ④ 自分にできること、したいことを考える
主な実施内容	<p>岡山県内の小学校では、お米の学習が5年生で実施されていることが多く、その状況の中でほかの国ではどんな米料理があるかを紹介します。</p> <p>1時限目 いろいろな地域での稲作の紹介 2時限目から3時限目 班に分かれて調理実習 3時限目 試食と後片付け</p> <p>例：バン格拉デシュ 魚のカレー タイ チキンライス スペイン パエリア ベトナム 生春巻きや米のヌードルなどの加工品 等</p> <p>品数、内容は、担任の先生と相談の上、決定させていただきます。</p>	<p>1時限：①「多文化共生」の基本的知識 （阪神淡路大震災での始まりから現状まで） ② 岡山で暮らす外国人について ③ 外国にルーツのある子どもたち・保護者の様子</p> <p>2時限：① テーマに沿ったグループでのロールプレイ 各グループに外国人に入ってもらい、グループで考える 例)・外国に暮らすということはどんな状況？ ・外国の人に伝えるにはどうしたらいいの？ 災害時の情報、生活情報の伝え方 注)テーマに沿っては受け入れ先との協議により確定する</p> <p>② 振り返り ・実際に外国人と出会って感じたこと ・外国に暮らすことの困難さ ・自分にできること を考えて発表し、お互いに新しい気づき</p>
学校が準備しなければならない機材・設備	調理実習室、食材費用 （特殊な調味料や米など、団体で準備するものもあります。）	パソコン、プロジェクター、マイク
講師派遣予定人数	日本人1名	日本人1名、外国人3名
連絡先	TEL：080-5236-2309 E-mail：tsutomukobayashi200641@yahoo.co.jp	E-mail：ineokayama@gmail.com

	3	4
実施団体名	岡山青年国際交流会	岡山ユニセフ協会
学習プラン名	Appreciating differences —ちがいを理解し、受け入れるために—	考えてみよう 世界のこと 自分のこと
主なテーマ	異文化理解、多文化共生	異文化理解・国際協力・多文化共生
時限数	2時限	1-2時限（応相談）
対象学年	中学校・高校	小学校（4年生以上）・中学校・高校
1回あたりの対象人数	1クラス（10～35名程度）	1クラス（応相談）
学習のねらい及び期待される成果	<p>岡山青年国際交流会は、「多文化共生社会」とはお互いの文化を尊重し合う社会であると考え、その価値観をより多くの人と共に学ぶことを大切にしている。本プランは、異なる文化をもつ人を未知の存在として拒絶するのではなく、共に生きる隣人として受容する姿勢を育てることを主目的とする。加えて、誰でも暮らしやすい社会づくりについて考えるきっかけをつくること、ならびに、岡山県在住の中高生と外国人との交流促進の素地を築くことを目指す。</p> <p>具体的には、まず、イスラム教やイスラム教徒の暮らしを題材としたクイズやゲームを通じて、生徒が楽しみながら異文化への扉を開き、関心をもつように促す。その上で、岡山県在住のイスラム教徒が日常的に直面する問題について考察し、その解決策について議論する場を設ける。外国人講師と国際理解教育に造形の深い日本人ファシリテーターのチームティーチングにより、生徒の知識を深めるだけでなく、想像力の枠を広げ、多文化共生社会の構築に当事者意識を持って取り組む姿勢を引き出す。</p> <p>なお、これらの一連の活動は、道徳や総合的な学習の時間、社会の授業と関連づけた形で実施することが可能である。</p>	<p>①多様性の理解と相互尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段あまり考えることのない「世界の子どもたち」の生活について知り、『子どもの権利』の観点から考えることで、多様性や相互に尊重して生きることの大切さを学ぶ。 <p>②SDGsについての理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界の課題について知り、「じぶんごと」として考えるきっかけとなる。
主な実施内容	<p>【第1時限】</p> <p><u>私の慣習</u> 選択肢を用意し、挙手性で、生徒が日々の暮らしの中で宗教に関する慣習にどの程度触れているかを把握する。</p> <p><u>国旗で仲間分け（アイスブレイク）</u> イスラム教徒が多い国の国旗でグループ分けをする。</p> <p><u>ムスリムクイズ（クイズ）</u> イスラム文化・慣習に関するクイズにグループ対抗で回答する。（食習慣、礼拝、断食月、ジェンダーについてなど）</p> <p>【第2時限】</p> <p><u>メッセージから読み取ろう（ディスカッション）</u> イスラム教徒が日常的に直面する問題について記されたメッセージカードを読み、「直面している問題は何か」「自分がその人の立場だったらどのような気持ちになるか」「なぜそのような気持ちになると思うか」の3点を議論する。</p> <p><u>私たちにできること（ディスカッション／発表）</u> 「メッセージから読み取ろう」で取り上げられた問題を解消するために、岡山県内でどのような取り組みができるかについてアイデアを出し、各グループから発表する。</p> <p><u>まとめ</u> 各グループからの発表を振り返ったうえで、岡山県内でイスラム教徒に対して、すでにどのような取り組みが行われているかを紹介する。</p>	<p>1 世界の子どもとユニセフ 環境問題や紛争、貧困など世界の課題や他国の子どもたちの生活について映像資料などで学ぶ。また私たちとのつながりについても知る。国際協力はなぜ必要なのか、自分事として課題意識を持つ。</p> <p>2 体験して考えよう！私たちにできること ユニセフの活動や他国での生活を身近に感じるよう、実際に水がめや蚊帳などの支援物資に触れ体験する。募金だけではなく、よりよい世界を作るために、私たちができることは何かがあるか身近な例から考える。</p> <p>※その他、ワークショップも可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの権利」をかるたなどで学ぶワークショップ ・「世界がもし100人の村だったら」世界の課題と現状を学ぶ体験型ワークショップ
学校が準備しなければならない機材・設備	プロジェクター、延長コード、スクリーン、スピーカー（HDMI接続でない場合）、マイク（会場の広さによっては不要） プロッキーなどの太字ペン	PC、プロジェクター、スピーカー、スクリーン
講師派遣予定人数	日本人2名、外国人1～2名	日本人2名
連絡先	E-mail : okayama.iyeo.iyeo@gmail.com	E-mail : okayamaunicef@gmail.com

	5	6
実施団体名	青年海外協力隊岡山県 OV 会	ダフェプロジェクト
学習プラン名	来て見て知って！国際支援ボランティア JICA海外協力隊の帰国報告&体験談	多民族多宗教の国ネパールから学ぶ 多文化共生社会
主なテーマ	国際協力・国際貢献	国際理解、多文化共生
時限数	1～2 時限	2 時限
対象学年	小学校・中学校・高校	小学校（4年生以上）・中学校・高校
1回あたりの対象人数	1クラス（30～40名程度）・100名程度	40名
学習のねらい及び期待される成果	<p>日本政府が行っている ODA の国際協力・国際貢献事業に参加して来た JICA 海外協力隊の経験者に、開発途上国のそれぞれの国々で宗教や価値観、肌の色、生活様式、文化の違い等、言葉の壁を感じながら現地での人々と同じ生活目線で活動して来た話を聞くことで、多様な世界を感じてもらおうと共に、世界に向けて視野を広げることで、いろんな国々の人々とういった形で寄り添うことができるかを考えてもらう機会を提供したい。持続可能な多文化共生社会への気づきを学んで貰いたいと思っている。</p>	<p>岡山に住む外国にルーツのある人たちの国のことを知るきっかけを作る。同じ地域住民として認識しあう。</p> <p>地域社会で国際理解・多文化共生にどう取り組むべきかを考える。</p>
主な実施内容	<p>◎活動報告の概要 任国・活動内容等</p> <p>◎派遣講師の任国・分野 派遣任国 アジア地域・アフリカ地域・大洋州地域・中南米地域・欧州地域・中東地域</p> <p>分野別</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 人的資源：小学校教育・理数科教育・環境教育・青少年活動・スポーツ教育（柔道、体育等） ② 保険・医療 ③ 社会福祉 ④ 農林業 ⑤ 商業・観光 ⑥ エネルギー ⑦ 計画・行政 ⑧ 公共・公益事業 ⑨ 鉱工業 	<p><1 時限> 「ネパールってどんな国？」 岡山在住のネパール出身者にネパールのことを話してもらおう。 ネパールってどんな国なの？ どうして日本で生活をしているの？ 多民族・多宗教の国ネパールから多文化共生のヒントを考えてみよう。</p> <p><2 時限> 「岡山から多文化共生社会を目指す」 在岡外国人の国別・在留資格別の統計から見えてくる岡山の現状や日本語教室や多言語相談窓口など行政の取り組みなどを知ろう。 国際交流と多文化共生はどう違うの？ みんなでグループに分かれて話し合ってみよう。</p>
学校が準備しなければならない機材・設備	特になし	プロジェクター、スクリーン
講師派遣予定人数	1名	日本人1名、外国人1名
連絡先	E-mail : ex.jocv.okayama@gmail.com	TEL : 086-238-8320 E-mail : danfeoproject2998@gmail.com

	7
実施団体名	特定非営利活動法人 AMDA 社会開発機構
学習プラン名	岡山の私たちの国際協力 — 中学社会科との連携を通じて学びを深める —
主なテーマ	国際協力、国際理解、多文化共生
時限数	2 時限
対象学年	中学校（1 年生以上、公民を学ぶ 3 年生がより望ましい）
1 回あたりの対象人数	40 名程度が望ましいが、調整可
学習のねらい及び期待される成果	<p>中学社会科の目標である「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を育成する」ための一助とする。</p> <p>地元岡山発の国際協力活動を入り口に、生徒が世界の多様性に目を向け、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの重要性を学び、その主体が自分自身であるとの認識を促す。社会科との連携により、学習効果の持続が期待される。</p>
主な実施内容	<p>1 時限目</p> <p>岡山に本部を置くアムダマインズが活動するアジア・アフリカ・中南米各国のうち、学校との事前調整で 1 か国を選択。日本との関わりを始め、地理・歴史の概要、当法人が活動する背景等を含め説明する。それぞれの国が抱える課題は多岐にわたり、その解決には当法人だけでなく、岡山はもちろん日本・各国・現地でも多くのアクターが関わっていることを伝える。その際、日本または岡山の私たちとの「格差」についても視覚的に実感できるような工夫を盛り込む。</p> <p>一方、どの国にも日々の暮らしがあり、そうした日常生活の様子も伝えることにより、自分たちとの共通点や違いを学び、身近に感じてもらうようにする。</p> <p>2 時限目</p> <p>(1) 当該国が抱える様々な課題の中で、自分たち（岡山または日本）の課題と関連または共通するものがあるかグループで話し合い、できることを考える。 <20 分></p> <p>(2) 話し合った結果を発表する。 <20 分></p> <p>(3) 学習全体のまとめと質疑を行う。 <10 分></p> <p>学校側（可能な限り） 実施前：事前に地理や歴史の授業内で対象国について 1 時限程度の調べ学習を行う。 実施後：公民的分野の「私たちと国際社会の諸課題」を学ぶ際、ふりかえりを取り上げる。</p>
学校が準備しなければならない機材・設備	パソコン、プロジェクターとスクリーンまたはモニター (必要に応じてマイク、スピーカー)
講師派遣予定人数	日本人 延べ 2 名
連絡先	TEL : 086-232-8815 E-mail : contact@amda-minds.org